

小学校

光村ポケット 道徳

定番教材を
アップデート!

副読本時代から、長く学び続けられてきた**定番教材**。

今、目の前の子どもたちに向けて、
どのような工夫が考えられるでしょうか。



実践1 6年で、「二わのことり」を学び直す



実践2 「手品師」の「その後」を考える



コラム 光村の道徳 その原点



光村図書

LINE公式アカウント友だち募集中!



授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

6年で、「二わのことり」を学び直す ——同一教材の学び直しで、自己の成長に気づかせる

「二わのことり」は、低学年で【B 友情、信頼】の内容項目で取り上げられることの多い教材です。それを6年生の3学期に、問題解決的な学習の流れで取り上げてみると、低学年のときには見えなかったものが見えてきます。

それは、子どもたちが成長しているという証でもあります。教材の中にどんな問題を発見し、どう解決しようとしていくか。それをみんなで話し合う時間として、学び直してみたいと思います。

岡山県瀬戸内市立
国府小学校 教頭
おぎまき 先生
尾崎正美 先生

【内容項目】B 友情、信頼 C 公正、公平、社会正義

【ねらい】これから目指すべき友情関係の在り方や築き方について考えることを通して、いろいろな人の立場になって考え行動することで、よりよい人間関係を築くことができるということに気づき、いじめを許さず自ら解決しようとする態度を養う。

【テーマ】よりよい人間関係を築くために、自分がするべきことは何だろう。



学習活動（主な発問と予想される児童の反応）

1（5分） 自分の中の、よりよい人間関係を築いていく力について考える。

- 周りの人とよりよい関係を築くときに、心がけていることや心配なことはありますか。
- ・相手のことを考えるようにしている。
- ・優しい気持ちで接するようにしている。
- ・中学校で新しい友達ができるか不安。

2（30分） 「二わのことり」を読み、人とよりよい関係性を築く考えや方法を話し合う。

- 小鳥たちの関係の問題点と、問題だと感じる理由を話し合ってみましょう。
- ・みそさざいが、一人でやまがらの家に行ったことが問題。他の鳥も誘うべきだから。
- ・うぐいすたちが、やまがらを仲間外れにしていることが問題。これはいじめだと思うから。
- うぐいすの家で、やまがらのことが気になったときのみそさざいの行動をどう変えたら、よりよい関係を築くことにつながるでしょう。
- ・他の鳥たちにも、やまがらがつらい思いをしていることを話し、みんなで行こうと誘う。
- ・他の鳥たちに、やまがらを仲間外れにすることをやめようと言う。

3（10分） 考えた案が実現できそうかどうか吟味する。

- 自分がみそさざいだったとして、今考えた案の実現に難しさを感じる場所がありますか。
- ・やまがらを仲間外れにするのがおかしいと思っていても、みんなに言えるか不安。
- ・うぐいすたちが聞いてくれないかもしれないので、まず信頼できる友達に相談してみる。

3（10分） 本時の学びを振り返る。

- 今日のテーマ「よりよい人間関係を築くために自分がするべきこと」について、今の考えをまとめましょう。

* ◎は中心的な発問、○はその他の発問。

ここがポイント！

ここでは、導入でもった課題意識を軸にして教材を読むよう促します。「よりよい人間関係を築く」ことについての課題意識をもっているからこそ、教材の中にある人間関係の問題を見つけることができます。

ここがポイント！

中心的な発問では、みそさざいの行動を否定するわけではなく、よりよい行動がないかと考えていくようにします。みんなで案を出し合うことで、人とよりよい関係を築く行動についてより深く考えることができます。

ここがポイント！

みそさざいの行動の改善案を考えていく中で、「自分ならできるだろう」と自分ごととして吟味していく姿勢を大事にします。



「手品師」の「その後」を考える ——「手品を終えた後」の気持ちから、自らの選択を見つめ直す

本授業では、「手品師」であえて「自分ならどうするか」と問い、児童が自身の価値観に照らして「自分に対する誠実さ」という価値について深く考えることができるよう、以下の二つの工夫を取り入れます。

- ① 役割演技で「手品を終えた後の手品師の気持ち」を考えることで、選択に伴う葛藤を体感させる。
- ② 授業の前半と後半で同じ問いを投げかけ、児童が自身の思考の変容や深まりを感じられるようにする。

【内容項目】A 正直、誠実

【ねらい】役割演技で、「手品を終えた後」の手品師の気持ちについて考える活動を通して、誠実に生きることのよさについて考え、誠実さを大切にしたいという心で過ごそうとする心情を育てる。

【テーマ】自分の心に誠実に生きるとは、どういうことなのだろう。



学習活動（主な発問と予想される児童の反応）

1（5分） 自分自身の生活を振り返る。

- 判断に迷ったとき、どうしていますか。
- たとえば、友達と遊ぶ約束をしていた日に、急に、人気イベントのチケットが手に入ったとしたら？
- ・自分の行きたい気持ちを優先して、イベントに行く。
- ・友達との約束を大切にします。

2（30分） 「手品師」を読んで、話し合う。

- あなたが手品師なら、大劇場と男の子との約束のどちらを選びますか。
- ・大劇場。自分の夢を叶えたい。
- ・男の子との約束。先に約束したから。
- 選んだ場所で手品を終えた手品師は、どんなことを思ったでしょう。手品師になったつもりで、インタビューに答えてみましょう。
- 〈大劇場を選んだ手品師〉
- ・自分の夢を叶えるために来たんだ。でも、男の子には申し訳ない。
- 〈男の子を選んだ手品師〉
- ・売れっ子になったかった気持ちはもちろんある。でも、男の子が喜んでくれたからいいんだ。
- ◎ あなたが手品師なら、どちらを選びますか。演じたり見たりしたことを踏まえて、もう一度考えてみましょう。
- ・約束を破ってまで自分の夢を叶えるのは、誠実でないと感じたから、男の子を選ぶ。
- ・やっぱり男の子を選ぶ。ずっと後悔するし、この手品師のように過ごせるほうがいい。
- ・大劇場。自分にうそをついて男の子のほうを選んだら、ずっと後悔すると思う。それは男の子にも失礼だし、誠実ではないから。

3（10分） 本時の学びを振り返る。

- あなたは、これからどのようなことを大切に過ごしたいですか。
- ・自分が後悔しない生き方。そうすると、毎日を明るい気持ちで過ごせそう。
- ・迷ったとき、自分の気持ちに真剣に向き合って考える。

ここがポイント！

授業の要となる場面。児童が手品師、教師がインタビュアーとなり、役割演技を行います。ここで、インタビュアーが手品師の思いや葛藤をどれだけ引き出せるかで、児童の心の動きや授業全体の深まりが大きく変わります。以下の観点を中心に発問や問い返しを行い、揺さぶりをかけます。

〈大劇場を選んだ手品師へのインタビュー〉

- 【場面】大劇場での手品が成功し、観客から拍手喝采を受けた後
- 【観点】男の子との約束を破ったことへの思い
- ・今、男の子がどんな思いでいると考えるか

〈男の子を選んだ手品師へのインタビュー〉

- 【場面】男の子の前で手品が成功し、男の子が心から喜んでくれた後
- 【観点】後悔はないのか
- ・二度とチャンスが来ないかもしれないことへの思い

ここがポイント！

中心的な発問では、前半から考えが変容した児童を指名し、その理由をたずねます。その際、「誠実」というキーワードを用いて問い返すことで、「自分の心に誠実に生きる」ことについて、考えを深められるようにします。



香川県高松市立
中央小学校 教諭
しのはらひろき
篠原弘樹 先生





子どもたちの

『心に問いかけ、考えさせる』

副読本を



昭和62年（1987年）、光村図書は、
初めて小学校道徳の副読本を発行しました。

創刊時の監修者は、臨床心理学者の^{かわいはや お}河合隼雄先生と、哲学者・美学者の^{いまちとも のぶ}今道友信先生。

また、副読本の副題である「きみが いちばん ひかるとき」は、
詩人の^{く どう な お こ}工藤直子先生につけていただいたものです。



昭和62年度版副読本の表紙。表紙絵は、谷内こうたさんの絵本より。

1・2年『ぼくだけのにんぎょう』（至光社、1974）／3・4年『なつのあさ』（至光社、1970）／5・6年『のらいぬ』（至光社、1973）

当時の教師用指導書の巻頭には、「人生を創造してゆく
知恵としての道徳」（今道先生）、「自由に楽しく学べ—新
しい道徳教育を求めて—」（河合先生）と題した、お二人の
監修の言葉が掲載されています。

子どもたちの『心に問いかけ、考えさせる』副読本を作
りたいという創刊時の願いは、副読本から教科書に代わっ
た今も変わりなく、編集部の中に受け継がれています。

河合隼雄先生



写真：アフロ

今道友信先生



写真：共同通信社

デザイン：ニマユマ イラスト：佐々木一澄（キャラクター）、小山友子（「二わのこり」）、小倉正巳（「手品師」）



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

